

## 中学生の説明的文章表現能力の発達 —自らを題材とする調査をもとにして—

牧戸 章

(滋賀大学教育学部)

### I 研究の位置

人間関係を切り結ぶという場合、ひととひととの積極的な係り合いが想定できる。しかし、そのような関係ははじめから形成されるわけではない。自我の形成期とされる中学生の時期にあっても同様である。他のひとに働きかけたり、何かの働きかけがあったときに自分なりに係わっていく必要が生じる。「ことば」にはそのような関係を支え促進するはたらきが本来ある。ところが、現在の子どもの「学力」に対する評価は、例えば次のように指摘されている<sup>1)</sup>。

- 1 「読み、書き、算」の基礎学力の低下
- 2 推理力・論理的な思考力、言語的な表現力の衰退
- 3 他人との交わり、共感する力の衰退
- 4 自己を見つめる力の衰退、生きることの意味を問う姿勢の衰退

これらは、直接・間接に本来的な「ことば」の能力を育てていないということを示唆している。他者と係わるためには、「ことば」で自己を深く見つめ、自己を表現していく必要がある。

このような問題意識のもと、そのような能力を中学生段階の学習者がどのように有しているのかという実態について、自らを題材とする説明的文章表現を行う学習的な調査を実施した。

### II 調査の概要

かつて文章表現能力をとらえる視点として、「相手意識／題材・取材／主題／構成・展開／叙述（文字・表記、語彙、文、文接続、表現）／文章評価意識」を設定して文章表現能力の発達のすじみちを描くことを試みた。そこでは「自己」に係わることとして次のようにとらえていた<sup>2)</sup>。

〈相手意識〉

「目の前にある人—具体的な人物を想定—不特定な（抽象的な）相手—自己」

○直接知覚できる人物を相手としての1対1のやりとりで、しかも自己中心的である。

相手からのフィードバックはないものの、目の前の人に語りかけるように働く。

○直接に見ることはできないが、具体的に相手をイメージ化することで、目の前に人がいる際に準ずるような働き方をする。

○相手意識は潜在化する。文章がそれ自体の、つまり、言語的コンテキストのみで成立するように働く。

○他者の意識化が明確化すると共に自己を客体としてとらえ、対象化できるようになる。

〈題材・取材〉

「自分の直接体験—自分を取りまく身近かな世界の出来事・現象—社会的・歴史的な出来事・現象—自己の内面世界」

○想起した像や観察した現象などを時間軸を用いて整理し位置づけるようになる。また、ある意図のもとに取材が可能となる。時間軸は外内在的となり、その時間も長く複合的で選択的である。統一的な視点を用いることで反省的・説得的なものである。(相手意識の発達に対応して、自己の内面世界も対象化できるようになる。)

〈文章評価意識〉

○自我の確立(自己の対象化能力)と相手意識とに密接な関連を持っている。さらに文章に対する価値観の発達が反映される。はじめのうちは書くこと自体に楽しみをもち、多く書くことを良しとしているが、そのうちに価値のあること、書くに値することをという意識が芽生え、育ち、ついにはその表現能力を越えていくと考えられる。

このことも考慮に入れながら次のように調査を行った。

[調査 I]

調査日 1993年7月8日(木)

調査校 福井大学教育学部附属中学校1年A組～3年C組 337名

(龍野篤朗、杉村敏隆、上杉祥子各教官指導)

調査内容 説明的文章表現指導の調査的試み

A組…学級のみんなに

B組…学校のみんなに

C組…指示なし

と、表現相手をかえて次の文章表現を行った。

「メモ」

\* 「自分」をいろいろな側面から見直してみよう。

思いついたことを自由にメモして、文章表現に活かそうと思ったものには○をつけよう。

「文章表現作品」

② わたくし・わたし・ぼく—自分のことをもっと知ってもらおう

600字の原稿用紙

[調査Ⅱ]

調査Ⅰの「文章表現作品」を自らの学習材として次の調査を行った。

調査日 1993年7月12日(月)～20日(火)

調査校 福井大学教育学部附属中学校1年A組～3年C組 337名

(龍野篤朗、杉村敏隆、上杉祥子各教官指導)

調査内容 説明的文章表現指導の調査的試み(2時間目)

- ① 自らの書いた文章を読み直す。
- ② 「下欄」に
  - …うまく表現できている。なかなか良い。
  - ×…少しまずかった。表現が不十分だった。
 の部分を上の文章表現作品に傍線を付し、箇条書きでどうしてなのかを簡潔に記す。
- ③ ②のあとで、「左欄」にもっとこんな文章表現もできた。こういうところをこう直したらどうか。など気がついたところを、箇条書きで記す。
- ④ ②・③をふまえ、できるところは元の文章に手を入れる。ただし、元の文章表現は消さずに、黒色以外のものを使うこと。また、③・④は同時でもよい。

Ⅲ 調査の結果

本稿では[調査Ⅰ]の結果について、具体的なメモと文章表現作品(1)～(12)以下に掲げる<sup>3)</sup>。それぞれ「学年・クラス(表現相手の別)・発達段階」で示してある。また、学習者の文章表現には手を入れていない。なお、発達段階についてはⅠ～Ⅳの4段階を帰納的に導き出したが、後に提示している。

(1) 1・A・Ⅰ

- ・性格
  - ・短気
  - 例 ・単純すぎる(冗談が通じない)
  - ・短気だけれどもやさしいときもある
- ・特徴
  - ・げら
  - 例 ・けっこう泣きやすい
  - ・キレると口が乱暴になる
- ・好きなこと(もの)
- ・きれいなこと(もの)

- ・ 家族のこと
- ・ 出身
- ・ 生年月日
- ・ 名前の由来 (祐子)
- ・

私の名前はK・Yといいます。11月8日生まれの附属小出身です。

私の性格は、わけの分からない性格みたいで、本当は、超単純すぎる性格をしています。おもしろいことがあれば笑い、つまらなかつたらすぐむっつりしています。だから、熱しやすくさめやすい性格をしています。

特徴は、とてもゲラなことです。けっこう泣きやすく、思い出して泣くこともあったり、たまにおこり出したりもします。

私の名前は「祐子」といいますが、「祐子」の「祐」は、神の助けという意味があるそうです。「祐子」か「ゆうき」かどちらかにしようとしていたそうですが、赤ちゃんのころの私は男そっくりだったので、せめて名前だけでもと、「祐子」と女の子っぽいものにしたんじゃないのかと思っています。

私の家族は、父、母、弟と私です。弟は小学3年なのに、体も態度もでかいやつです。私の好きなものは、具体的なものはないのだけれど熱中したりすると何でも好きになるような感じですか。きれいなものは、なす、へび、というものがいちばんきれいで、あとはかぞえれば、分からないほどあると思います。

こんなわけの分からない性格の私ですが、みなさんよろしくお願いします。

(2)1・A・I

2〇・性格 (長所・短所)

1〇・名前

- ・ 好きなこと
- ・ 家族のこと

3〇・特徴

「藍:」この名前は、父がつけてくれました。藍という意味は、どういう願いをこめて付けてくれたかということは、ただ、

「お父さんは、藍色が好きだから。」

としか、言ってくれません。藍色の藍という植物は、生まれた時より、染めた時に、すばら

しい色がでてくるそうです。もしかして、そのような事かも。昨日、美術の先生に、  
「藍っていうの。いい名前ね。」

と言われました。それまで、こんな藍という名前、きにいていませんでした。人によみまちがえされるし。だけど、先生のたった一言ですが、いい名前かなって思いました。

私は緊張すると、声かわるそうです。みんなに、声かわいいねっていわれます。今、その事を、気にしています。だって、父にはただそれは、幼ちくさいだけだ。なんて、笑われます。べつに私は、普通にしゃべっているつもりです。緊張すると、顔が赤くなる人なんています。そのように、どうにもできないことなのでしょうか。でも、特な時もあります。このように自己紹介の時など、一つの事として発表できます。そして、私の性格は人からは、やさしいねっていわれるけど、おせじでしょう。それと短所は、根気がないことだと思います。それと、競争心がないということです。この人よりは、とか、ここまでがんばろうという気持ちが、余中でくずれてしまう事が多いです。これが私の自己紹介。

### (3) 1・B・I

○陸上部に入っていること

○性格のこと

しゅみ

数学が好きだけれど、あまり成績がよくないこと

清明小出身のこと

○以前もっていた附中のイメージと今のイメージ

○小学校のころのあだ名

友達づきあいのこと

### 今の私

私の名前は、友田沙織といいます。小学校のときは、友田の友をとって、ともやん、又はももやん、もものすけなどたくさん名前と呼ばれていました。

私は、性格はそんなに明るい方ではないけど、休み時間はうるさいし、笑い声がでかいので、明るい、と見られているらしいです。でも、授業中はあまり発表をしないので、暗いかもしれません。よくわからない性格をしている、と自分でも思っています。

部活は陸上部に入っています。先輩方が優しいし、おもしろいのでとても楽しいです。あんまり足は速くないし、はばとびも高とびもとばないし、持久力もないので、なんで陸上部に入ったんだ、と言われそうですが、やっぱり先輩方が楽しそうにしていたからと、走るのが好きだから、入部しました。

附中に入学するまでは、「みんな頭がいい人ばかりで、勉強ばかりしているのかなあ。」と  
思っていたけれど、今は「自由で、勉強も部活も一生懸命で、みんな仲のいい学校だから、  
とても楽しい。」と思っています。

一番心配していた先輩も、友達もみんな優しいし、もう言うことなしです。でも、私はあまり  
成績が良くないので、がんばってみんなに追いつかないとだめだなあ。と、いつも考えて  
います。

こんな、よくわけのわからない私ですが、これから、よろしくお願いします。

(4)1・C・I～II

- ・体のわりになきむし&気が小さい
- ・たくさんの男子と友達、女子の友達より仲がいいかもしれない。
- ・だれとでも気がるに話ができる。
- ・兄と比べると頭がとっても悪い。
- ・私と父の性格、顔などが似ている、顔の形もそっくり
- ・あまりきんちょうしてしまう
- ・ちかんに合っても反射神経でたいてしまった。
- ・自分の近くに不潔の人がいたら、はっきり「不潔」と言ってしまう。&体がかゆくなる。
- ・自由に鳥はだかだせる。
- ・泳ぐのが好き
- ・みんなが意外というが、おしゃれである。
- ・好きな人の前にいくと顔がゆるんでしまう。(話したこともない。)

男に生まれていれば

私は、男に生まれたかったです。そうして男に生まれたかっただけで、男に生まれてい  
れば、ケンカもできるし、カッコイイ服も着られるし、別にうっとうしい髪もないし、おし  
ゃれにもあまり気を配らなくてもいいからです。男は、さっぱりしているし、自由気ままな  
行動ができるのでいいです。

それに、別らべると女は、もじもじしていて、力もないし、女子の中にはぶりっ子をして  
いる子もいます。もしも、女同士でケンカをすると、集団で文句を言いに来たり、仲間はず  
れにされてしまうのです。そんな所がうっとうしいのです。

しかも、友達を作るんだったら女の私でも男の友達の方がいいです。今、現存ではきっと  
女子より男子の友達の方が気が合って何でも、話ができます。

別に、女がとってもとっても嫌いと言う訳ではないけれど、どっちかと言うと男の方がよ

かったです。

今、女だけれど、男みたいな服を着てばかりで、スカートなんて、制服ぐらいしか持っていない。

ほとんどズボン類を持っています。女の子には、できないサッカー、バスケット、野球など、男子の中でただ1人だけ女が入っているのは、私だけです。

どうして、女は、弱いのでしょうか。高い声を出せるのでしょうか。私とはぜんぜん似つかわしくありません。

(5)2・A・II～III

(良)

- ・存在感がある
- ・なににでもめりこむ
- ・あかるい
- ・だれとでも話せる
- ・努力

(悪)

- ・はやとちり
- ・口をすべらすことがある
- ・すぐおちこむ

悪いことを考えない。

自分自身の課題

僕はいつもつねに「明るい」というイメージを持って生活している。だからけっこう存在感もあり、気軽に声をかけて友達も簡単につくってしまう。僕はこのことが自分にとって一番の利点だと思っている。それに僕は自分が興味を持ったことはなんでも挑戦してしまい、それにのめり込んでしまうタイプだと思っている。現に今まで僕は数多くのスポーツをやっている。

このような利点がある反面、僕にはまた、数多くの欠点もある。

僕はいつも「明るい」をモットーにしているとあったが、これが中学生になってある大きな壁にぶちあたってしまった。

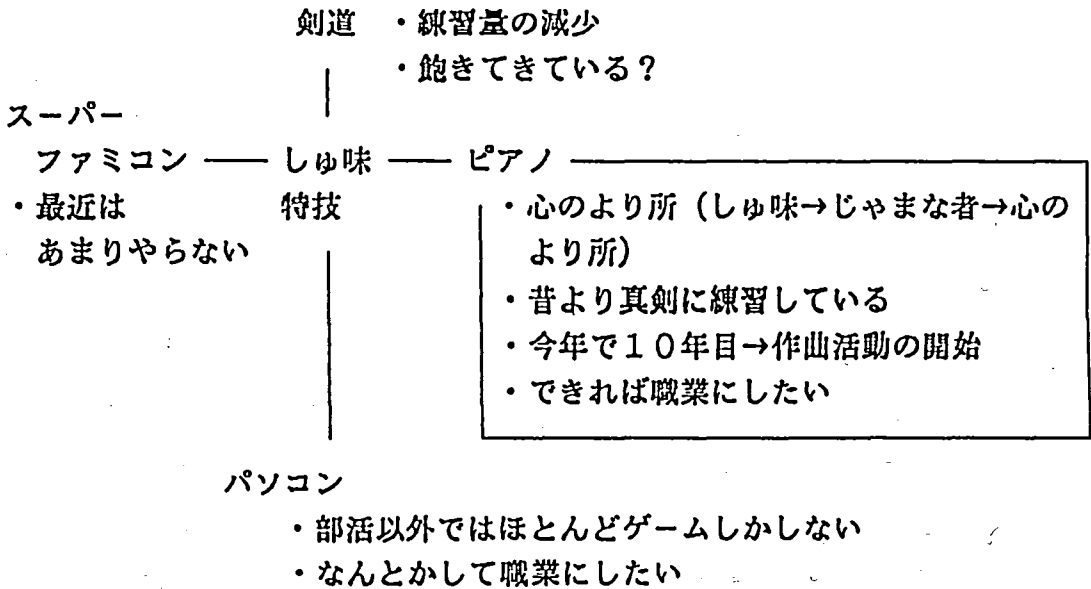
「明るい」という僕はなにをするときでも、悪い事態のことを考えない、つねに良い方向しか考えていなかった。それは小学生のころまではそれでスムーズにいていたが、中学生になってそれが今崩れようとしている。それはテストで、ものすごい点数をとってしまったから

である。これは僕にとっては数少ない経験なのでとことん落ち込んでしまった。

いま僕の中の「明るい」は崩れようとしている。でも僕は思った。  
(一回落ち込んで、そこから立ち直ったら自分は成長するだろう。)

このことから今後の自分の課題は、どんな悪いことがあってもへこたれずに努力して、明るい自分を保っていくようにするという決心を持つようになりました。

(4)2・B・II\*



心の鍵盤

十年前、僕にとって、ピアノは趣味だった。週一回、近くの幼稚園で合同レッスンをする。音楽の授業と殆ど変わらないそんな練習でも、当時は楽しくてしょうがなかった。

一日十分の練習が目標だったけど、それ以外にも時間を見つけてはピアノを弾いた。なぜなら、当時の僕にとってそれが一番楽しかったからだ。二年間のレッスン中に使った「おけ



いこ手帳」は、今でも机の中にある。

五年前、僕にとってピアノは義務だった。最初の頃の新鮮な気持ちは消え失せ、「やめたくない」というほんやりした意志のもとで中途半端なレッスンを繰り返し、先生に叱られることも少なくなかった。

そんな中での十二月、発表会があった。何か月も前から練習してきた曲に対して、自分の予想をはるかに越える反響があった。誰かが自分の曲を聞く。僕は久々に、ピアノを弾くことに意義を見出したような気がした。

そして今、ピアノは僕の心のより所である。昔より練習時間は少ないけれど、一生懸命弾く。それが、自分の成すべき事だと思っているからだ。

今年で十年、今まで数え切れないほどたくさんの曲を弾いてきた。そしてこれからも、たくさんの曲を弾くだろう。なぜなら、これからも僕はピアノと自分を切り離すつもりはないからだ。

#### (7) 2・B・II～III

- ・性格、考え方 ・家族との関係 ・好きな事 ・生活態度 ・自慢
- ・人との関係 ・尊敬する人等々 ・目標 ・好きな言葉

- ・性格や考え方について
- ・だまされやすい。○・悪い方へと考え方が進む(悲観的)
- ・自分を常に他の人より下に置く。 ・人から感謝されたりしたくない。
- ・優柔不断 ・けじめがつけられない。
- ・様々なことを深く考えすぎて失敗する。
  - ・現実と理想との中間の考え方を持つ。 ○・人見知りが激しい
- ・感情の起伏が激しい ・自分が嫌い ○・自分の信念を絶えず持つ
  - ・正しい事はよい事である、悪い事はよくない。悪い事が正しい事もあるという考え方はひねくれている。
- ・人、家族との関係
  - ・人見知りが激しいので新しい人には自分から積極的になろうとは思わない。
  - ・自分の「この人はすばらしい考えを持った人だ」という人には、どこまでもついていく。
  - ・家族の関係とは、偶然のものではあるが大切だと思う。
  - ・家族の関係が少しでもくずれると、全てがだめになると思う。

- ・親の考えや意見は、どんどん自分に取り入れていかなければならないと思う。
- ・好きな事
  - ・静かな所でゆっくり読書 ・知らない知識を身につける
  - ・ボーッとする。 ・自分が興身を持った事はとことん追求する。

### 自分の評価

僕は自分について、今日は性格や考え方について自己評価してみようと思う。

まず僕の性格で気に入っている所は、ひかえめだが常に自分の信念を持っている事である。自分を常に、他の人よりも下の立場に置いている中でも、他の人から様々な事を吸収し、自分の考えをしっかり持ち決してそれを変えたりはしない。自分のそんな、けっこうしっかりした所が、自分ではなかなか気に入っている。

ところが、あまりにも自分の考えだけで物事をすすめる事が多いため、物事が途中でうまくいけなくなったり、そのため人に迷惑をかける事も少なくない。また一つの事を深く考えすぎたり、逆に多くの物から一つを選択する時等、迷ってしまうことがよくある。そんな性格からか、非常にお人よしで、よくだまされることがある。この辺が自分で、長所でもあり短所でもあると思う。

自分のことは自分が一番よく知っていると言いますが、その言葉とは逆に自分だから知らない面も多くあると思います。人の目から客観的にみて「ここはだ目だな」とか「ここはこの人の長所だ」と思う事がたくさんあるのではないだろうかと思います。

しかし、あえて僕を自己評価するなら五段階にうちの二で、まだまだといった所じゃないかなと思います。人から僕はどのように見られ、評価されているのか。評価だけが全てではありませんが、楽しみなものです。

### (8)2・C・Ⅲ

- ・話している時の声が小さい。(歌っているときは大きいらしい)
- ・興味のないものには、一生けんめい取り組まない。
- ・本気でおこると、だまってしまう。
- ・調子よく他の人の話にあわせていても、心のなかではクールになっている。
- ・下手だけどピアノが好き。
- ・人見知りのはげしい。(人になじむまでにすごく時間がある)
- ・気げんの悪い時は友達と話していても早く話を打ち切ってしまう。
- ・人の顔色をうかがいながらしゃべる。
- ・自分から、相手をおこらせないようにしている。(絶対にケンカは買わない)

- ・自分の気持ちを裏切っても、人の話に合わせる。

自分が思っている私～クラスみんなへ～

私は、友達としゃべるとき、友達の話にあいづちをうっているだけで、そんなにしゃべる方ではない。友達だけではなく、他の人でもそうだ。しかし、そうやって調子良く合わせているように見えるかもしれないが、実は、心はずでにクールになっている。

また、私はそんなにおこった事がないような気がするが、私の場合、本気でおこると、だまってしまう。もしかすると私は、はらぐろい人間じゃないかと、自分で今、思ってしまった。でも、そういう態度をとってしまうわけがある。私は、友達とケンカしたり、おこられたりすることが大嫌いだ。だから自然に、自分を守るという方向にってしまうのだ。大人と話す時は特に、顔をうかがってしまう。

それから、私が心の中でクールになっているわけにはもう一つある。私は一人っ子なので、大人の話しか聞かないで育った。そのため、私とそのレベルの話を友達にしても理解してもらえなかったことや、友達の話を聞いていても理解できなかった事が、積みもり積もってこういう性格になってしまった。

私は人にすごくあまえてしまうタイプで、いつもたよってしまうので、自分で私は弱い人間だと思っている。

(9) 3・A・II～III

- ・私には自分がないのではないか。
- ・たまに優柔不断だと思う。だけど嫌いなものは嫌いということもある。

↓

そうなのではなくて、自分にとってはどうでもよいことをむりやり、好きか嫌いか、にわけようとして、どっちでもよい=わからない=優柔不断になってしまうのではないか。

↓

自分に興味のないことはあまり真剣に考えない。(みんなそうかもしれないけど)

↓

私にとっては、多いような気がする。

こう考えると、私はすごく冷めているような気がする。

冷めているというと、好き嫌いははっきりいうみたいな人をイメージするが、実はちがうのではないか。

タイトルのない私へ

私は、自分について考えるのが嫌いだ。いや、私はいつも自分は何なのか考えているけど、その度違う自分に逢って、自分というものがみつからないのだ。たとえみつかったところで、私は短にそれが自分だと信じ込んでいるにすぎないのだ。

例えば、ある時私は好き嫌いの激しい自分になる。でもそうかと思えば、イライラする位優柔不断だと思う。後者の場合、私は自分にとってどちらでもよいことを無理にどちらかにとってどちらでもよいことを無理にどちらかに決めようとしてしまうから分からなくなり、自分に腹が立つのだと思う。そう考えれば、私には興味のないものに対してはすごく冷たい自分が存在するように思えてくる。ということは、前者の私と後者の私は、やっぱり一つの私なんだと思う。私は少しホッとする。

こうして考えてみて、私には少なくとも一つのことを言えることがわかった。それは、どちらでもよいことを定義付けるのが苦手だということだ。

私は、自分について考えるのが嫌いだ。それはきっと、自分にタイトルをつけて発表するなんて無理だ、無意味だ、と思っているからだだろう。それは、私が未熟者だからで、将来は胸を張り、「私はこうだ」を言えるようになるのかもしれない。どちらにしても、私はまだまだ人生を十五年と六日しか生きていない。私に必要なのは、自分を見つけることじゃない。精いっぱい生きることだ。自分を探して焦っている私に、私はこう言いたい。

#### (10) 3・B・IV

×自分の名前・生年月日・星座・血液型

○部活している時の私

勉強している時の私 — 何かをしている時

#### 2つの性格

私ははっきりいって二重人格です。それは意地悪とかいう意味での二重人格というのではなく、自分でいうのも何だけど、これでもやる時はとことんやる方です。私は今まで（もちろん今でも）家族や友達からのん気とかトロイとかいわれています。でも私はけっこう努力家なんです。本当は。

では、部活中の私を紹介しましょう。私の入っている部活はバレーボール部で3年生はたった4人しかいません。部活をしているとき私はちょっときつい性格になります。それはみんなアドバイスとかなおしていったらいいと思うことを言い合ったりすれば技術も又団結力もついていくと思っているから私はちょっときつくなります。もちろん私も友達からアドバイスなどいろいろ言われています。でも私もみんなも部活が終われば、よい友達、やさしい先輩にもどります。もちろん私も部活が終わるとまたトロイ性格にもどってしまいます。

本当の私はきつとがんばり屋できつい性格なのかもしれないけど、やっぱり今の私にはちよつとのん気でのんびりした性格の方が合っているなとつくづく思います。

みなさん、私の性格少しでもわかってもらえましたか。私もまだ自分の知らない面があると思うので少しでも私の本当の姿が見えてくるようになったら私も大人に近づくのじゃないかなと思っています。

(1) 3・B・Ⅱ～Ⅲ

自分のことについて

- ・この学年の中では頭はいい方だと思う。
- ・背が低い
- ・好きなことは、スポーツ、特に球技をしたり見たりすること
- ・字が汚い
- ・普段は冷静に物事を見ようとしているが、たまにがむしゃらになうてしまうときがあるが、どちらかといえば冷静な方だと思う。
- ・今年を受験の年で、部活、サッカーは後少ししかできない。高校は、このままいけば群は受かると思う。もっと頭が良くなって常に460や470台をキープできるようになったら県外もねらってもいいけど、もう手おくれだと思う。
- ・このクラス、3Bはいいクラスだ。とよく言われるが全然そんなことない。まともはないし、真剣さも感じられないし、団結心なんて全然ない。みんな今のことしか考えていないし、自分の好きなようにしすぎだ。後先のことを全然考えない。自分の主張ばかりを通しすぎだ。そのわりには他力本願な面が多い。A組は、演劇についていろいろやっていて、その話を聞くと、B組には何一つまねできない。というようなB組の欠点を今までずっとB組の一員として見てきた僕は、たくさんあげられる。このように、僕は自分のクラスの悪口を平気で言えて、しかも欠点しか見つけられないような冷たくて心のせまい一面を持っているように思う。
- ・僕はけっこう苦勞するタイプかもしれない。と思ったことがあったが、僕が苦勞するのは普通のことをしているだけで、他の友達がサボっていたり、軽めに流していただけたと思う。つまり、自分は何事にも一生けん命やりすぎる一面が他人よりも少し強いと思った。それと同時にやや自信過じょうな面もあると自分でも思う。

3年B組を見て

僕のクラスは3年B組です。僕達は、昨年からよく、いいクラスですね。と言われていた。しかし、僕はそうは思わない。そのことを感じた僕の体験と、それから感じた気持ちについて

て書こうと思う。

今は文化祭の準備の下準備をしている。三年生は演劇をするが、今、その脚本の内容を深め合おうと国語の授業のようなことをしている。それを見て思った。はっきり言って、四分の三は真剣でない。先生は、よくこれを見ていい話合いだ、と言えたと思う。国語の授業の数段レベルが下だ。今ここで中身を深めると演劇はどうなるのか、みんなはそのことを考えたことはあるのか、国語の授業で得た考える力を発揮させたくはないのか、と一瞬のうちにそこまで考えが発展してしまうほど思った。多分、みんなは休みたいのだと思っはいるのだが、そういう自分の主張をしすぎだと思ふ。現在のことしか考えていない。後先のことを考えるのは大事なことなのだが、そう思っはいて、A組の演劇の話を知いた。すばらしかった。「他人のものは赤く見える」とよく言うが、そのときのB組には真似できないと思っはいた。というように、僕は僕自身がB組の一員だったためか、欠点をいろいろあげられる。僕は、自分のクラスの悪口を平気で言えて、しかも欠点しか見つけられないような冷たくて心のせまい一面を持っているように思ふ。

(12) 3・C・II～III

- ・めんどうくさがりや ・意志が強い ・古い人 ・数学が大嫌い
  - ・理科が大好き ・ヨーロッパにあこがれている
  - ・音楽が大好き、とくにピアノ ・人に流されない
  - ・自分一人の時間も楽しめる ・極度の寒がり ・集中力がある
  - ・興味のないことや人はとことん無視する ・金づかいがあらひ
  - ・なるべく余計なこと(自分のためにならないこと)はしない。
  - ・まじめさに欠ける
  - ・いつも、なにか考えているとき以外は、頭の中に音楽が流れている。
- ：気が小さく、心配性
- ・こわがりでは全然ない ・楽しいことは存分に楽しむ

私と、“心配性”

私の性格の一番大きな部分を占めるのは、“心配性”である。ずばり、この性質は父親直伝のものである。“心配性”というからには、心配の対象があるわけであるが、その対象は重要なことから日常生活の事細かなことまで実に多岐にわたる。

まず、重要なことであるが、この対象はテストやコンクールなど、はっきりとした結果が返ってくる時である。要するに、「自分に悪い結果が返ってきたら、傷つくんじゃないか」という事が怖いのだ。“心配性”＝気が小さいなのかもしれない。私が努力する時というのは、

私の中の“心配性”の部分がある、というパターンが多いのだ。

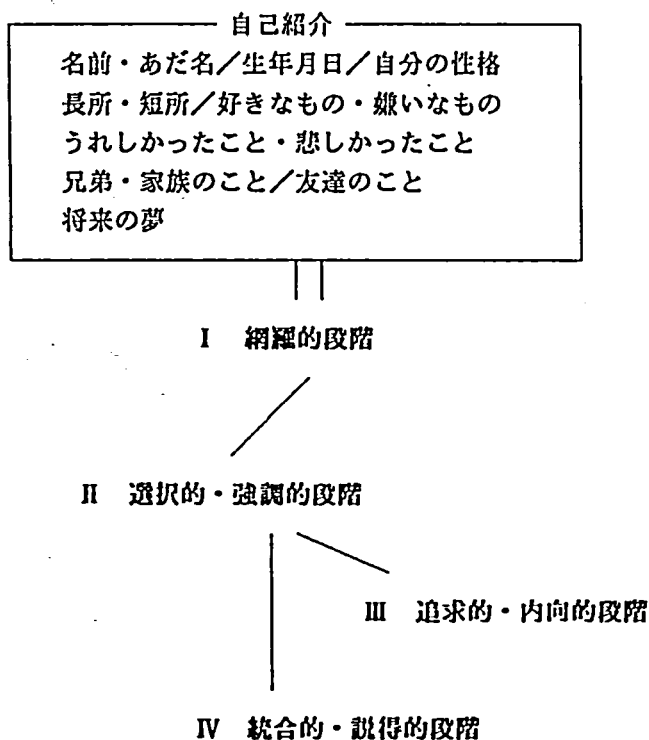
次に事細かなことだが、これは非常に厄介なものである。例えば、バスにのってどこかに出かけるとする。家から目と鼻の先にあるバス停に行くのに、30分前から気になり始める。そして、20分前には準備完了の状態ですぐ待機をはじめ。そして、15分前からは1分毎に時計に目をやり、10分前には出陣する。そして、定刻の2分前になってもバスが来ないと、「渋滞で動けないのかな、もしかして事故にでも遭っているのでは…」と、心配の上に心配が雪のように積もってくる。

このように“心配性”は、時には私にヤル気を出す原動力になってくれるいい奴だし、時には私をどうしようもなくナーバスにする全くもって迷惑な奴である。いずれにしても、私は一生、この“心配性”とつき合っていくハメになるだろう。

#### IV 考察

今回の調査から次のようなことが示唆された。

- 1 自らを題材とする説明的文章表現において、次のような仮説的な発達のプロセス（発達段階）を見て取ることができた。



一方で、調査結果に掲げた「\*」を付けた「(4) 2・B・II\*」のように創作的なエンターテイメント的な文章表現を展開する作品も見られた。この作品は全体的にそのような文体となっているが、他の文章表現作品においてもそのような要素が見られることもあった。これをどのように位置づけるかは今後検討を加える必要がある。

- 2 この種の文章表現において「できごと」(エピソード)の占める位置が、文章表現作品全体を評価する指標となるのではないか。具体的な指標として提示できるように考察していく必要がある。
- 3 メモと文章表現作品との関係においては、メモを十分にしてしまうとその後文章表現作品として展開していくことにつながりにくいし、かえって表現意欲を減退させることにもなる。メモをどうすることが認識を深めることにつながっていくのかを考えなければならない。
- 4 相手意識は潜在化しており、選択的に読み手への呼びかけなどの具体的表現が用いられるようになっている。
- 5 2年生のある女子生徒が、「作文は嫌で、詩で書きたい」と主張した。「1」の仮説的な発達のプロセス(発達段階)に位置づけると「II~III」の過渡的なところに位置づけられる作品を書いた学習者であった。この調査的学習において、詩歌の表現が相応しいかどうかは疑問の残るところであるが、表現意欲の問題とも相まって、表現を行うときの自己充足性について考慮する必要性が示唆された。

---

<sup>1</sup> 村越邦男「子ども・学力・発達」白石書店(1989.7)から引用者が集約・整理した。

<sup>2</sup> 牧戸章「文章表現能力の発達に関する研究(1)—文章表現能力(試案)—」『兵庫教育大学研究紀要』第7巻(1987.3) pp.19-39

<sup>3</sup> 牧戸章「推敲過程にみる『文章評価意識』についての発達論的考察」中国四国教育学会「教育学研究紀要」第39巻第2部(1994.2) pp.91-96 において[調査II]の結果とその考察を提示した。

#### 付記

本稿は第84回全国大学国語教育学会における自由研究発表「言語表現能力の発達(2)—中学生の説明的文章表現(2)—」を基にしている。また、調査に協力いただいた学習者のみなさんに深謝申し上げます。